



貿易

概要報告の目的：

- EB-148 に対し、EB-147 以降の貿易に関わる活動を報告する。
- EB-148 に、貿易に関する 2016 年の行動案を報告する。

関連：

- ✓ EB-147 貿易に関する概要

背景：2012年大会の決議を受け、PSIは不公平な貿易協定との戦いを世界的にリードする存在としての立場を確立した。PSI世界執行委員会と運営委員会は、焦点を貿易協定が公共サービスに与える脅威と、民主的政府から企業への権力が移行していることに注目する決定を行い、新サービス貿易協定（TiSA）、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）、EUとその他諸国との協定に関するPSIの取り組みを優先課題とした。SC-19は、TPPの全文が公開されると、TPPに反対する方針を承認した（<http://www.world-psi.org/en/race-sign-tpa-highlights-growing-public-anger>）。PSIは、FESとの価値あるパートナーシップに資金を投じてきたが、これにより、2014年以降毎年財政支援が増額した。2015年は合計93,000ユーロ、2016年は合計145,000ユーロに上がった。

議論：

EB-147以降、PSIは、世界規模の労働フォーラムで全国キャンペーンを促し、政府に影響を与えながら、政策討議をシフトさせることに成功した。

TiSAの展開

おそらく取り組みにおける最も大きな展開は、2015年9月7日にウルグアイのタバレ・バスケス大統領が、ウルグアイがTiSA交渉から撤退することを発表したことだった。これはPSIと加盟組合、賛同団体の努力の賜物にほかならない。この発表に続き、パラグアイも交渉から撤退した。パラグアイは3番目に撤退した国となる。

PSIのウルグアイ加盟組合は、2014年ジュネーブで開かれたTiSAサミットに参加し、TiSAが公共サービスに与える影響について話を聞いたうえで、行動を起こす約束をした。PSIは2015年5月12日にFES後援の会議をウルグアイで開き、TiSAに反対する民間部門と公共部門の労働組合を引き合わせた。2015年8月6日の全国1日ストライキでは、ウルグアイの全国労働組合連盟、PIT-CNTが、同国のTiSA交渉撤退を要求の1つとして求めた。組合が特に心配しているのは、TiSAが政府の規制能力を制限することであった。地元のキャンペーンは、ロビーを可能にした情報の質が成功の理由だと考えている。こうした成果は、私たちが賛同団体と共に持続的に、かつ十分な情報を受けたうえでキャンペーン活動とロビー活動に取り組んだとき、どのような効果が発揮できるかを示している。参照：

<http://www.world-psi.org/en/uruguay-abandons-tisa-negotiations-victory-psi-affiliates>

投資家国家間紛争解決（ISDS）

欧州政府が、貿易協定への市民の反発に一層神経質になっている兆候がある。欧州委員会はTTIPとCETAで提案されている賛否両論の投資家国家間紛争解決（ISDS）について、協議を実施した。労働組合と市民社会は、情報と、これらの協議に対する対応を取りまとめたところ、15万人がこれに反応し、ISDSを拒否する立場が97%以上に上った。これを受け、EUのセシリア・マルムストロム通商担当欧州委員は、ISDSが「欧州で最も有害な略語」という発言をした。2015年秋、EUが投資裁判所制度（ICS）に名称を変更する案を発表した。これは、あまりにも見え透いた手続きの乱用であるが、外国の多国籍企業が、公益のために政府がとった民主的な措置を訴えることができるようになるという基本姿勢は変わっていない。PSIは新たなICS案の問題を説明するためのリサーチを委託した。

TPP

7年間の交渉の末、非公開の TPP 文書が発表されたことで、協定の具体的な問題を露呈させる機会が得られた。TPP は、民主主義、開発、公共サービスを脅かし、とくに公衆衛生では ISDS もあって脅威は深刻だ。PSI は、この脅威を明らかにする声明を発し、加盟組合に情報を配布した。また、各国の行動を支援し、加盟組合に TPP 反対の行動を促した (<http://www.world-psi.org/en/issue/tpp>)。行動はオーストラリアやニュージーランドからチリまで、多くの国で行われた。 (<http://www.world-psi.org/en/trade-unions-and-social-organizations-say-chile-better-without-tppa>)

戦いのための能力養成

PSI、FES、「世界は売り物ではない」(OWINFS) が、ロビー活動の援助を目的に、サービス貿易協定の読み方と分析方法について、3 日間にわたる専門研修を行った。研修は、加盟組合 25 団体と GUF、ナショナルセンター、市民社会組織、民間部門の労働組合を対象に行われた。講師はジェーン・ケルシー教授で、撮影も行われた。PSI は、組合の能力養成をさらに強化するために、これを土台とした組合研修資料の制作を始めている。この取り組みは GUF を戦いに参加させるうえでも重要であった。このワークショップの参加者は、TiSA に対する決議を作成することに成功し、ETUC 大会で通過させ、また ITF、UniGlobal、EI などの GUF や TUC、DGC (ドイツ) などのナショナルセンターが積極的に反対の立場を強く表明してきたなど、意欲的に反対派を拡大してきた。

EB-147 以降、PSI は以下を実施した。

- コスタリカ、ペルー、パナマで全国キャンペーン会議を開催。コロンビアとウルグアイでは、2015 年初めに会議が開かれた。
- ラテンアメリカ諸国 (コスタリカ、コロンビア、パナマ、ペルー) を対象に、TiSA が規定する市場アクセスの約束について研究を委託し、キャンペーンとロビー活動に活用できるようにした。
- ウィキリークスが、貿易文書として最大となる TiSA の交渉文書 10 点以上をリークしたことについてコメントした (<https://wikileaks.org/tisa/>)
- エネルギー関連事業の付属文書について、リークされた TiSA 文書の分析を COP21 に合わせて発表した。
- オタワで開かれた民主主義への資金確保 (Financing Democracy) サミットで、パネルディスカッションに参加し、閉幕にあたっての基調講演として、貿易協定との戦いの重要性を訴えた。参照：
<https://www.youtube.com/watch?v=75eBYjVAMMs>;
- 新サービス貿易協定のページに関する WTO フォーラムでセミナーを開催した。
- モスクワ、ベルリン、ブリュッセルで、貿易協定が公共サービスに与える効果に課するフォーラムに参加し、米国 TTIP 交渉担当者やドイツ MEP スタッフのロビー活動などを話し合った。

2016 年の PSI 活動は、コロンビア、コスタリカ、チリ、メキシコ、パナマ、ペルー、インドネシア、モーリシャスでの国別会議と、ラテンアメリカでは地域調整会議がある。PSI は引き続き市場アクセスに関するリサーチを実施し、国別概要報告、政策概要をまとめ、キャンペーン活動を押し進める。さらに重要な活動として、2016 年は貿易担当オーガナイザーをラテンアメリカで採用する。

この役職は期待したように採用が決まらなかったため、一部の活動に遅れが生じた。また、FES への約束を果たすことも困難になっている。2016 年の作業計画ではこれを盛り込む必要がある。

予算面：なし

次のステップ：

- 貿易担当オーガナイザーを採用する。
- FES と合意した行動プログラムを実施する。
- 国別会議を開く。

EB-148 に対し以下を勧告する。

1. 概要報告書に留意する。
2. PSI が ICS に反対の立場であることに留意する。

はい/いいえ
はい/いいえ

